

第①回

【紅葉】と【黄葉】

いずれも「こうよう」と読み、旧仮名づかいで紅葉は「こうえふ」、黄葉は「くわうえふ」である。「もみぢ」の名は、絹地を紅花で染めた紅絹（もみ）に由来するという説が有力であると思う。

楓の化石は約六千万年前の地層に出現し、三千万年前に著しく分化した。楓の葉の化石が栃木県塩原町や秋田県湯沢市で見つかる。塩原の「木の葉化石園」の展示の中に裂片が七つのみごとな楓の葉がある。

紅葉前線が九月に大雪山から南下し始める。一日の最低気温が摂氏八度以下になるのが色づくために必要で、五度以下で一気に紅葉が進む。冷えると葉柄の付け根に離層ができ、葉の中で糖類が変化する。色の違いは酵素の違いで、紅色は生産されたアントシアン、黄色はカロテノイド、タンニンが多いと褐色になる。

京都盆地はいくつもの活断層の運動で生まれた。数十万年の間に隆起した山地から土砂が流れて扇状地を作り、京都盆地の厚い堆積層を形成し、その中に豊富な地下水を含むようになった。京都盆地の夏は蒸し暑く冬は底冷えするが、その気候が、楓や桜の紅葉の微妙な色合いの変化を生み出してくれるのである。